



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向け)	キーワード (該当ワードを○で囲む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABCDE)	次年度の主な課題	
○○○○○ 地地地地グ 域地域域口 防交環社 ！ 災流境会力 のを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造奇人 学るすす材 校学るすす 校学て 校の 学校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	農業食品科 農業食品科	インターンシップの充実 プロジェクト学習の充実	<u>2年生を対象としたインターンシップの実施。</u> <u>全学年でプロジェクト学習を実施し、発表会まで行う。</u>	9 15	A B	学科の特性を生かした受け入れ先を開拓する。 科目横断型授業を充実させ、主体的に学びに向かう姿勢を育む。	
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	農業食品科 国際交流	グローバル教育の充実	<u>地域の農業課題だけでなく、世界の農業経営や情勢について理解を深める授業を各学年2時間以上実施する。</u>	15	B	外部講師を招いて講義を行い、知識を深める。	
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、 GAP) 経営	農業食品科	福岡県GAP認証の取得	<u>GAP教育を推進し、福岡県GAP認証の取得を目指す。</u>	12	A	プロコリー・ホウレンソウで福岡県GAPを取得することができた。全ての品目でGAPに取り組む。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業化、 食農教育、経営、 HACCP	農業食品科	商品開発	<u>地域企業と連携し、遠賀町の特産品を利用した新商品の開発に取り組む。</u>	8	A	メンマとビワの葉を活用した商品開発に取り組んだ。次年度は完成を目指して取り組む。
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、 循環型農業、 循環型社会	農業食品科	環境保全型農業への取り組み	<u>化学肥料や農薬の使用を例年の7.0%に抑え、環境と調和した持続可能な農産物の生産を行う。</u>	15	A	数値目標は達成することはできた。次年度は生徒が栽培計画を立て、持続可能な農業生産へ主体的に取り組ませる。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、 特産物、 地域交流、食農教育	農業食品科 農業食品科	地域特産物の普及活動 学校の施設を利用した地域交流	<u>水巻町の特産物であるジャンボニンニクを栽培し、地域イベント等でPR活動を行う。</u> <u>地域の中学生を招いて、食品加工講習会を実施する。</u>	12 3	B A	栽培、販売まで取り組めた。次年度は地域イベント等でPRしていく。 中学生を招いてパンづくりを行った。地域交流の拠点になるように次年度も計画していく。
	7	Society5.0の時代に合わせた教育	スマート農業、 ICTを用いた学習	農業食品科	ICTを用いた学習	<u>実習等で、クロームブックを活用し、作物の成長や管理の記録等を行う。</u>	15	B	プロジェクト学習等で積極的に活用していく。
	8	地域防災を推進する教育	地域防災、 多面的機能	農業食品科	農業の持つ多面的機能の学習	<u>農業と環境の授業で農業の持つ多面的機能の役割や価値について学習する。</u>	15	B	体験学習を通して農業に対する理解や価値を深めていきたい。

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた